

■フランス：低所得者向けエネルギー小切手、最高で 250 ユーロの見通し

ロワイヤル・エネルギー・環境相は 2016 年 4 月 6 日、テレビ放送において生活困窮者に与えるエネルギー小切手の金額は最高で 200～250 ユーロになるとの見通しを述べた。フランスでは現在、低所得者向けに料率を低くした「必需品料金 (TPN)」（電気）、「連帯特別料金 (TSS)」（ガス）という名称の福祉型料金を適用しているが、実際はこれらの料金を受けられる資格のある家庭の半分にしか適用されていないという問題とともに、熱需要を薪、石油、LPG、地域熱供給など電気・ガス以外のエネルギーに頼っている貧困家庭が無視されているという批判もあった。このため、2015 年 8 月に成立したエネルギー移行法では、2018 年 1 月以降、福祉型料金からエネルギー小切手への全面的切り替えが決まった。エネルギー小切手はエネルギー代の清算に限らず、住宅のエネルギー効率改善工事費の支払いにも利用できるが、その場合、最高 3 年間分をまとめて利用することができる。エネルギー小切手の受給資格は「消費単位 (世帯)」の課税収入が 7,700 ユーロを上回らないことが条件とされ、小切手の平均額は 150 ユーロ、単身世帯では 96 ユーロ、子供 2 人の夫婦だと 227 ユーロになると政府は試算している。2018 年からの全面実施に先立ち、アルデッシュ、アヴェロン、コート・ダルモルの 3 県での試験実施が決まっており、他にパ・ド・カレやオート・ガロンヌ県とも交渉中という。政府は試験実施の結果を 2017 年 10 月 1 日までに議会に報告することになっている。